

# あぐりめ〜る新川

第44号(平成21年9月発行)  
富山県新川農林振興センター  
〒938-0801 黒部市荻生3200  
(TEL) 担い手支援課 (0765)52-0268  
(0765)52-5192  
農業普及課 (0765)52-0094  
(0765)52-0945  
(FAX) (0765)52-3115

## 担い手育成・支援活動の紹介

当センターでは、認定農業者や集落営農組織等を対象とした各種講座を開催して、担い手の育成支援を行っています。



複合化現地視察



パソコン簿記研修



機械の点検整備講習

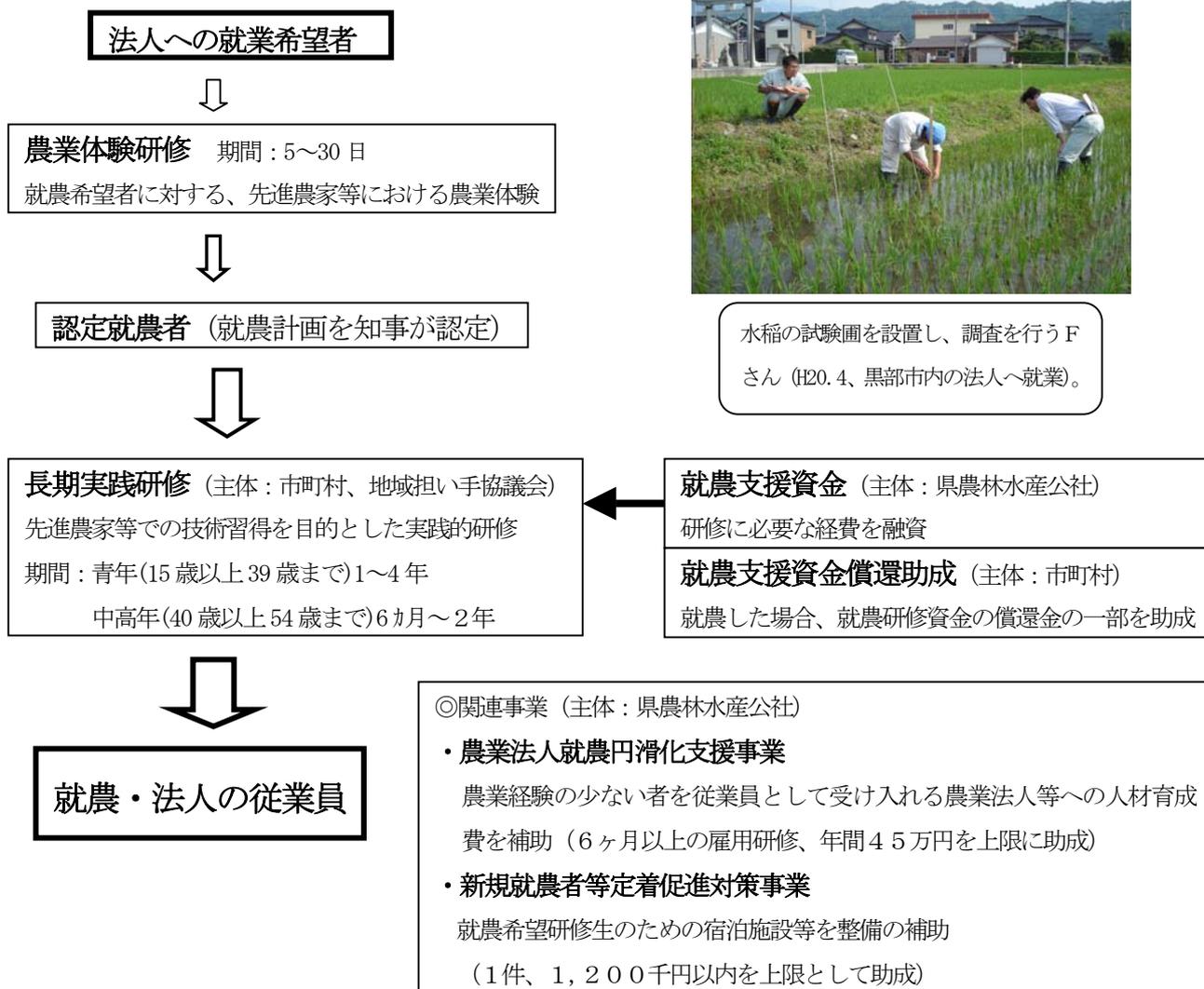


米の乾燥方法についての研修

# 農業法人への就業と就業後の育成支援制度について

近年、農業法人への就業を希望する人が増えていますが、一方で、就業するためには、どのような研修を受けて、技術を習得すればいいのか？また、就業後、技術の向上を図るためどんな支援制度があるのか？等のお問い合わせが多くなっています。そこで、今回は、法人への就業と就業後の主な支援制度を紹介します。

## ◎農業法人への就業等の支援



水稻の試験圃を設置し、調査を行うFさん (H20.4、黒部市内の法人へ就業)。

## ◎就業後の育成支援

- ・**青年農業者育成基金事業** (主体：県農林水産公社)  
35才以下の青年農業士を対象に、先進技術の取得や先進技術体系の導入を支援
- ・**農業ニューリーダー育成事業** (主体：県、農林振興センター)  
農業経営者の育成を図るために、県ではアグリカレッジコース(経営基礎)とビジネススクールコース(経営実践)を数回開催。農林振興センターでは、集落営農講座(栽培管理コース、経営管理コース)を数回開催している。

# 園芸品目の侵入病害について

～こいつを見たら要注意！！～

近年、園芸品目では国外から新たに侵入したウイルスによる病害が発生し、被害が急速に広がる事例が見られています。特にアザミウマが媒介するウイルスのうち、「キク茎えそウイルス(CSNV)」や「インパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)」の発生が国内で急速に拡大しており、本県でも注意が必要です。そこで今回は、これらのウイルスの病徴や防除対策について紹介します。

## 1 ウイルス病の病徴について

CSNV は、2006 年に広島で初発生が確認され、キクやトマトを中心に被害が拡大しています。本ウイルスに感染すると茎や葉に黄化症状やえそ症状が現れ、トマトでは果実にもえそ症状が見られます。重症株では茎のえそ部より上位が枯死します。INSV は1999年に静岡で確認され、インパチエンスやサイネリア等の花き類で被害が多く報告されています。感染すると葉に黄化症状やえそ症状が現れます。これらのウイルス病はアザミウマ類によって媒介されるため、アザミウマの防除を徹底する必要があります。また、キク等の栄養繁殖性の品目では、感染株を親株にするとさし穂にも伝染します。圃場での接触伝染や汁液伝染の可能性は少なく、種子伝染、花粉伝染、土壌伝染の報告はありません。



CSNV によるトマトのえそ症状

CSNV によるキクのえそ症状

INSV によるサイネリアの黄化症状

## 2 ウイルスを媒介するアザミウマの防除対策について

アザミウマは1令期の幼虫が罹病植物を吸汁したときのみウイルスを獲得し、その個体が成虫になってから死ぬまでウイルスを媒介し続けます。セイヨウタンポポ、カラスノエンドウ等の雑草にも寄生するので、アザミウマを増やさないようにするためには、圃場周辺の雑草防除を徹底する必要があります。特にミカンキイロアザミウマは花粉を摂取すると爆発的に増殖するので、圃場内やその周辺に不要な花がないように管理してください。施設栽培では目合い0.6mmの防虫ネットの設置が侵入防止に有効です。幼虫は土の中で蛹になるので、被覆資材でマルチをすると蛹化を防止できます。その際、シルバーマルチを用いると成虫の飛来を防ぐこともできます。

アザミウマの防除薬剤にはマクロライド剤、ネオニコチノイド剤、有機リン剤等がありますが、効果のある薬剤であっても続けて使用すると効果が低下しますので、ローテーション散布を心がけてください。薬剤散布にあたっては使用方法及び使用上の注意事項を守ってください。ここで示した病害に類似した症状が見られた場合、また不明な点は農林振興センターにご連絡ください。

～感染株の早期発見・早期除去と、アザミウマの防除により、病気の拡大を防ぎましょう！！～

# 富山米の生産安定はたゆまぬ土づくりから

近年の気象変動の中、高品質な農産物の安定生産や環境にやさしい持続性の高い農業生産を図るために、土づくりは重要です。しかし土づくりの重要性は解っているものの、収穫が終わればコストや労力等から土づくりは後まわしになっている状況もみられます。

土づくりは一朝一夕にできるものではありません。コツコツと継続して取り組むことが肝心です。今こそ「美味しい富山、土への愛情。－“元気”土づくり宣言－」をスローガンに、しっかりと土づくりを実践しましょう。

## 1 富山県内の土壌の実態

富山県における水田土壌調査結果では、近年有効態ケイ酸含量、PH、腐植含量が低下しているほ場が多いという問題点が明らかになっています。

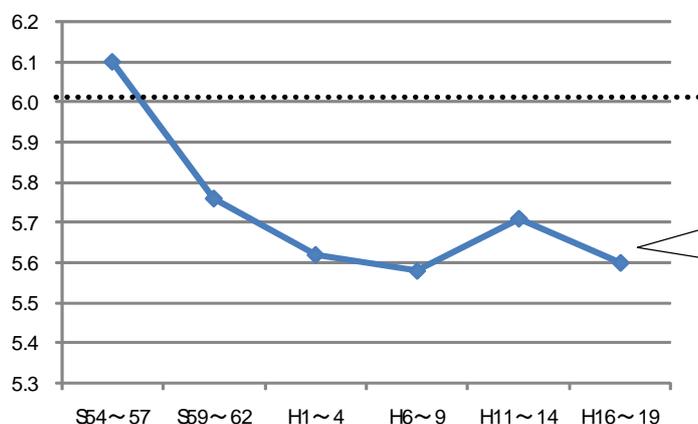


図1 作土中のpHの推移  
※グラフ内の点線は目標値

土壌pHは年々低下している。近年では、全体の84%が基準のpH6.0を下回る。

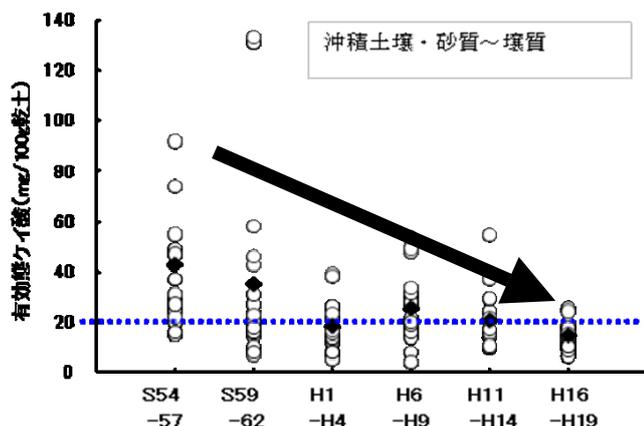


図2 作土中のケイ酸養分の推移  
※グラフ内の点線は目標値

年々、ほ場内の有効態ケイ酸が減少している。全体の95%が基準値を下回っている。

(平成20年度農業分野試験研究の成果と普及)

<県内水田土壌の腐植% H16~19年度56地点調査>

	全体	沖積土 乾田	沖積土 半湿田	洪積土 黄色・台地	洪積土 黒ボク
腐植%	4.28	3.26	4.32	4.03	8.46

沖積砂質土壌を中心に腐植含量の低い圃場が多く見られる。

## 2 改善するための取組み

まず、土壌分析結果によってほ場の健康状態を把握し、土づくりを実践しましょう。

### <土壌分析の項目とその目標値(富山県の水田土壌)>

	腐植 (%)	有効態リン酸 (mg/100g)	有効態ケイ酸 (mg/100g)	土壌PH
沖積土 乾田	3~5%	10	20	6~6.5
沖積土 半湿田		15	50	
洪積 黒ボク土・赤色土				

※上記の目標値に達していないほ場では、土壌改良資材の施用やほ場管理により、目標値に近づけましょう。

### 土づくりのポイント!

#### ① 土壌PHの矯正

土壌pH目標値であるpH6.0を下回る圃場が多く、最近の調査ではpH5.0未満の圃場も見られるなど、PH矯正が必要なほ場が多く見られます。特に大麦、大豆は土壌pHの影響を受けやすいので、作付け前に必ず土壌PH矯正しましょう。

##### 【対策】

- ◆石灰質資材を確実に施用する。

#### ② 土壌改良資材の施用

土壌の養分は、作物により毎年多量に消費されており、特に珪酸の補給が不足しています。

##### 【対策】

- ◆ケイ酸質資材などの土づくり資材を施用し、稲体を丈夫にして倒伏や病気を防ぐ。
- ◆収穫後の稲わらや籾のすき込みによって、稲体に含まれる珪酸分を還元する。

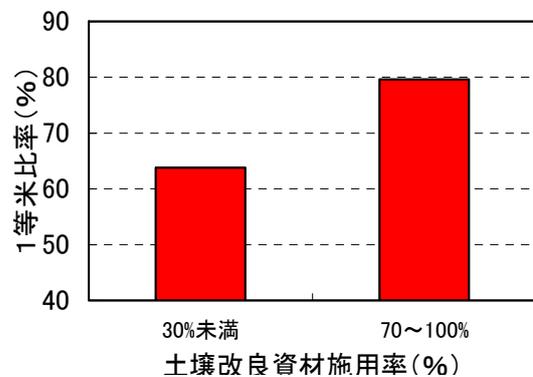


図3 土壌改良資材と一等米比率

#### ③ 深耕による有効作土層の拡大

深耕は、根の生育に適した作土層の形成に効果的です。水稻では、根張りが良く倒れにくくなり、安定的に水分・酸素・養分が供給できることから、強風やフェーン、高温下にも耐えて健全に生育・登熟することができるようになります。

##### 【対策】

- ◆秋耕と春耕の2回掛けで、深耕15cm以上を確保する。
- ◆秋起こし後、排水溝を必ず設置する。

#### ④有機物の施用

堆肥の施用や稲わら・緑肥のすき込みは、土壌の透水性・通気性を良好にします。また、土中の腐植含量を高めるだけでなく、地力を高めます。腐植が少なければ、枯れ上がりが早く、秋落ちしたり、気象変動の影響を受けやすい稲になります。

##### 【対策】

- ◆たい肥や発酵鶏ふんを施用する。
- ◆たい肥の確保が困難な地区は、緑肥作物を作付する

#### ～10月1日は土づくりの日です～

もう一度、過去の“土づくり3Q運動”の取組みを思い起こし、<sup>サンキュー</sup>3Qを合言葉に土づくりを実践しましょう。

#### 土づくり<sup>サンキュー</sup>3Q運動とは

昭和60年代に全県的な土づくりの一貫として取組み、富山米の生産安定確立に大きく貢献した運動の1つです。収穫の恵みに感謝の意味を込めて、<sup>サンキュー</sup>3Q (quality[質] quantity[量] quickening[生きかえらせる]) = 「より深く、より良く、より豊かに！」を合言葉に展開されました。

#### 管内トピックス

### 集落営農講座が開催される



昨年より農業技術の習得と優れた経営者能力を有する人材の育成を図るために、集落営農組織の構成員を対象に集落営農講座（栽培管理コース、経営管理コース）を7月から11月にかけて実施しています。

現在まで、栽培管理コースでは、稲や大豆の栽培管理講習、現地での組織複合化研修などを行ったところです。また、経営管理コースでは、外部講師を招き、農業簿記ソフトを用いて記帳入力など講習を行いました。

**※農業情報活用状況のアンケートにご協力お願いします。**

**結果は、次号（12月号）で掲載予定。**